

子供の復学不安軽減、病院内学校と前籍校先生の連携アバター利用

1. 目的

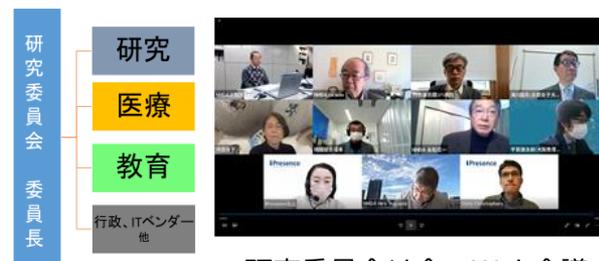
2020年度JKA補助事業(未成年入院患者の学校教育(生活)参加支援に関する調査開発研究)では、学校生活に笑顔で参加できることを確認。

2021年度では、具体的な利用シーンとして「復学時の不安軽減」を設定し、アバターロボット導入、入院～復学に至る各プロセスの明確化と課題の仮説を立て、実証実験を通して各プロセスにおける効果、課題、課題対応策の検証を行う。

2. 事業概要

- ・アバターロボット導入のプロセスの明確化(～利用、入院～復学)
- ・関係者のコミュニケーション関係の明確化
- ・特別支援学校における実証実験での課題検証
- ・専門家から構成される研究委員会にて、実証実験の結果を多方面から解析

研究委員会 構成メンバー



研究委員会は全てWeb会議

3. 成果

- ・アバターロボットでの学校生活参加は、復学時の不安軽減に大変有効
- ・復学に向けての各プロセスそれぞれで課題があり、アバターロボット導入での子どもの笑顔は、それぞれの課題対応の積み重ねで実現
- ・普及に向け、現場の先生主導で促進できる仕組みや支援が必要(⇒ 2022年度採択テーマ)
- ・各プロセスで様々な関係者がおり、関係者間をつなぎ全体を取り纏める「コーディネータ」(特別支援学校先生、病院コーディネータ等)の役割が重要

実証実験参加特別支援学校

特別支援学校	前籍校	該当児童・生徒	フェーズ	利用テレロボ
実証実験1 埼玉県立けやき特別支援学校	S市O小学校	小3男子生徒(復学済)	2	kubi
実証実験2 沖縄県立森川特別支援学校 (沖縄県立南部医療センター こども医療センター)	N市I小学校	小6男子生徒(復学済)	2	kubi
実証実験3 京都市立桃陽総合支援学校 (京都大学医学部付属病院)	K市K小学校	小6男子生徒(復学済)	2	kubi
実証実験4 大阪府立光陽支援学校 (大阪医療センター)	S市M小学校	小1女子生徒(復学済)	3	kubi
実証実験5 京都市立桃陽総合支援学校 (京都市立病院)	K市T中学校	中1男子生徒(復学済) 現在短期入院中	3	kubi